

株式会社石垣

| 製造業 | 一般機械器具 |



4つの方式に分散していた 申請業務をX-point Cloudに集約 約800万円／年の業務効率化と 開発効率の飛躍的向上を実現

申請業務の集約

開発効率の向上

紙の稟議書の電子化



上下水道向けの環境機械やポンプで国内トップクラスのシェアを誇る株式会社石垣(以下、石垣)は、リモートワーク体制の構築を目指し、X-point Cloudを導入。紙の稟議書を完全に電子化し、コロナ禍においてもスムーズな組織運営を可能にした。さらに、従来、4つに分散していたワークフローの集約も進め、申請業務や内製開発の効率を飛躍的に引き上げた。X-point Cloudの導入後、同社では、約800万円／年相当の業務時間が削減され、ワークフローシステムの開発効率は2～3倍程度に向上している。



課題・背景

紙、e-mail、システムと申請業務が分散

複数のシステムの開発にかかる多大な工数

紙の稟議書がリモートワークへの対応を阻害



業務効果

X-point Cloudに申請業務が集約

ワークフローシステムの開発効率が2～3倍に向上

コロナ禍でもスムーズな組織運営が可能に

株式会社石垣

<https://www.ishigaki.co.jp>

本社所在地

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-6-5

設立

1960年

従業員数

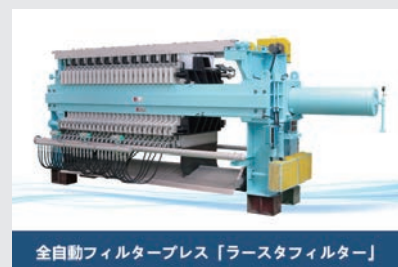
483名
(グループ合計955名、2021年11月1日現在)

事業内容

ろ過機・脱水機、ポンプ等の製造・販売、上下水道プラント・ポンプ設備の設計・施工

会社概要

株式会社石垣は、1958年創業した上下水道インフラ向けの機械メーカー。脱水機・ろ過機分野では国内屈指の存在であり、なかでもフィルタープレス市場ではトップシェアを誇る。





株式会社石垣
情報システム課課長

中村 晋 様

「導入にあたっては管理部門など他部署との連携が必須だと思います。弊社の場合、他部門と協力することで、システムの急速な展開が可能になりました」

経緯／課題

申請業務の分散が業務効率と開発効率を大幅に低下させていた コロナ禍の危機を乗り越えるため、システム導入に着手

石垣は、上下水道向けの環境機械やポンプ、産業機械を製造・提供し、水を操るエキスパートとして安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献している。固体と液体を分離する脱水機・ろ過機が主力製品であり、特に上下水道などで利用されるスクリーンプレス・フィルタープレスの市場では国内トップシェアを誇る。製品は海外向けにも提供されており、アメリカ、欧州、オセアニア、中国に現地法人を展開。グローバル規模の販売ネットワークを通じて、世界各国の水環境を支えている。

石垣は2020年にX-point Cloudを導入。紙の帳票、e-mail、SharePoint、Notesの4つの手段に分散していた申請業務の集約を進めている。X-point Cloud導入以前の課題について、情報システム課課長の中村晋氏は振り返る。

「申請業務の分散は業務効率と開発効率の両面で課題でした。申請業務が複数の手段に分かれていると、従業員はどの申請書をどの手段で起票すればいいかわからず、無駄な時間を費やしてしまいます。特に、SharePointとNotesの区分は曖昧で、重複している申請書も少なくありませんでした。一方、運用側の情報システム課では、SharePointとNotesとで開発手法が異なるため、開発効率の悪さが課題になっていました。申請書の作成やマスタの管理などにかかる手間は膨大で、開発スキルも属人化していました」（中村氏）。

加えて、紙の帳票も業務効率低下の大きな要因だった。従来、石垣では稟議書を紙の帳票で回付し、押印で承認を行っていた。そのため、遠隔地の拠点で稟議書を起票した場合、決裁までに2週間程度を要し、記載に不備などがあったときにはさらに時間がかかった。

このような運用の申請業務は、コロナ禍によって困難になっていく。出社率削減を進めた石垣では、経営層を始めとした決裁権者の出勤が減少。その結果、申請業務が滞り、組織運営が停滞する事態となった。特に、紙の稟議書の決裁は大幅に遅れ、遠隔地の拠点は身動きの取れない状況が続いた。この事態を乗り越えるため、石垣はテレワーク端末の配布やネットワークの確保などを急ピッチで推進。次の対応として、紙の稟議書の電子化を目指し、ワークフローシステムの導入に取りかかった。

選定／導入

30製品を約40項目の評価軸で比較し、X-point Cloudを選定 他部署と連携した導入により、スムーズな全社展開を実現

ワークフローシステムの選定を担当した中村氏は、WEBでのリサーチを通じて、30製品をリストアップ。「ポータル」「開発効率」「企業存続・サービス継続」「端末汎用性」「コスト」「デザイン」の6項目、その6項目に紐づく41項目の機能要件で比較検討を実施したところ、X-point Cloudが最も高い評価点を獲得した。

特に高い評価を集めたのはX-point Cloudの操作性の高さだった。申請フォームや承認ルートをGUIで設定できる機能は、開発効率の向上を望む石垣にとって大きな魅力だった。また、選定時にはエイトレッドのオンプレミス版パッケージ製品である「AgileWorks」も検討されたが、早急な運用開始やマスタ管理の簡略化を目指して、X-point Cloudが選ばれた。中村氏は「弊社の規模を考慮すれば、AgileWorksでもよかったとは思いますが、X-point Cloudも十分な機能を備えていますし、何よりクラウドのメリットを活かしたスムーズな導入が可能でした」と、X-point Cloudの機動力を評価する。

導入は2020年6月ごろから開始。情報システム課のほか、企画広報課、総務課、各事業の管理部門などが参画し、全社的な導入が展開された。なかでも、時間が割かれたのは社内規定の改訂だった。当時の社内規定で定められた決裁権限は、実際の職位と完全には対応

■膜厚測定結果の自動連携

[illegible]

ポンプに塗装された塗料の厚さを専用測定機で計測。測定結果をX-point Cloudの「塗装膜厚検査票」のフォームに自動連携している。

こうしてコロナ禍のリモートワーク体制下においても、スムーズな組織運営が可能となった。

開発効率も飛躍的に向上した。木船氏は「ざっと見積もって、開発効率は2〜3倍に向上しています」と、導入の手応えを語る。

「以前、申請業務を行っていたSharePointやNotesは、開発の手法が複雑で、プログラミングやデバッグにかなりの時間を要しました。ベテランの情報システム課員でも、申請書を年間3本作成できる程度です。しかし、現在では若手課員でも年間10本ほど申請書を作成しています。こうした開発効率の向上には驚くばかりです」(木船氏)。

活用のポイント

「システム担当者は業務改善担当者でもある」

既存の業務を見直し、X-point Cloudの導入効果を最大化する

X-point Cloud導入が成功した要因について尋ねると、中村氏は「導入前の業務改善」を挙げる。社内規定の変更などを通じて、既存の業務のあり方にメスを入れたのが導入成功のポイントだったという。

「仕事のやり方を変えたくないのは誰にとっても同じです。しかし、既存の業務をそのままシステムに反映したのでは導入効果は期待できません。導入前には入念な業務見直しが必要不可欠です。これからX-point Cloudを導入される方は、単なるシステム担当者ではなく、『業務改善担当者』という意識で取り組みに臨んでみてはいかがでしょうか」(中村氏)。

「システム導入の担当者は、業務改善の担当者でもある」という中村氏の指摘は、DXを実現するうえで欠かせない視点だ。今後、X-point Cloudを活用にする企業も、この視点を参考に効果的な導入を実現してほしい。

記載の担当部署は取材時の組織名です。記載される会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。



株式会社 エイトレッド

7150-0002

東京都渋谷区渋谷2-15-1

渋谷クロスタワー1階

エイトレッド
導入事例
Webページ

